

2025 年 7 月 18 日

報道機関 各位

**原爆放射線の健康影響について、
世界で最初の医学的・統計学的観察による論文形式の資料
「長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察」贈呈式を開催**

長崎大学医学部では、下記のとおり「長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察」の贈呈式を開催しますので、お知らせします。

「長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察」は、旧長崎医科大学第一外科教授であった調来助博士が 1945 年 10 月から 11 月にかけて実施した原子爆弾災害調査において、被爆者約 5,800 名の初期症状を調査・分析し、論文の形でまとめた資料です。原爆放射線の健康影響を医学的・統計学的に示した世界初の最初の文献であり、歴史的かつ学術的価値を持ちます。

これまで調家で保存されていましたが、被爆 80 周年を機に未来永劫、後世に伝えるため、調漸長崎大学名誉教授より、長崎大学医学部に寄贈されることとなりました。

記

日時：2025 年 7 月 25 日（金）10 時 30 分～11 時 30 分（予定）

場所：長崎大学医学部基礎研究棟 1 階 医学部長室



長崎大学 坂本キャンパス
〒852-8523
長崎市坂本 1-12-4

【本リリースに関するお問い合わせ先】

担当：長崎大学生命医科学域・研究所事務部総務課企画担当

電話：095-819-7195 FAX：095-819-7199

Email:isy_soumuka@ml.nagasaki-u.ac.jp

参考資料

調来助博士による「長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察」の学術的意義について

原子爆弾は、人類史上初めて使用された故にその人体影響が医学的に解明される必要がありました。放射能研究で高名なアンリ・ベクレルやキュリー夫人ですら、放射線の健康影響を受けていて、高線量被曝の恐ろしさを知らなかったのです。原子爆弾では爆風や熱線といった通常爆弾でも見られる物理的エネルギーによる破壊力も桁違いでしたが、爆心地から1 km 以内では外傷のない被爆者の94%が死亡したとされ、その死因がまさに原爆放射線が原因の健康被害によるものでした。

その医学的影響の科学的証拠を最初に提供しようとしたのが、調来助博士による「長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察」です。1945年8月9日、旧長崎医科大学では約900名の教職員と学生が一瞬のうちに亡くなりましたが、コンクリート製の建物だった大学病院の中には生存者もあり、第一外科教授であった調博士もその一人でした。調博士は被爆直後から医療チームを結成し、阿鼻叫喚の原子野の中で懸命に被爆者救済にあたります。そして、1945年10月から11月にかけて被爆者約5800人の初期症状について被災調査票を記録しました。これを約1年かけて4編（第1編：原子爆弾による死亡率について、第2編：受傷者の死亡時期について、第3編：原子爆弾による外科的損傷について、第4編：原子爆弾による放射線病に就いて）の論文の形でまとめたものが、この「長崎に於ける原子爆弾傷害の統計的観察」です。当時、新興善国民学校と大村海軍病院を仮の大学病院として被爆者救済に奔走していた調博士がこれだけ膨大な記録を短期間で精緻に解析したことは驚異的と言わざるを得ません。

調博士はその解析に統計学的手法を用いました。当時は被爆者に見られる症状の種類、数や発生頻度など医学的現象に注目が集まることが多い中、数学的手法を用いて、本当に原爆放射線と有意な関係のある急性症状は何かを説明しようとしたのです。

この解析で明らかとなった下痢、発熱、悪心・嘔吐、出血、口内炎、脱毛などは急性放射線症状として知られるようになり、現在に至ります。原爆放射線の健康影響について、世界で最初の医学的・統計学的観察による論文形式の資料であり、原爆被爆者研究の端緒として、本学に於ける重大な歴史的かつ学術的価値を持つ資料です。また、原爆後廃校の危機にあった長崎医科大学が復興を果たすことにも尽力された調博士の名実ともに本学復興のシンボリックな記録ということも可能です。

我々人類は原爆被爆者を通して放射線の人体への影響について、詳しく知ることができ、職業被ばくの安全限界値などを決めることができるようになったのです。

Military Surgeon
Vol. 113. P. 251-263 (1953)

長崎に於ける原子爆弾
傷害の統計的觀察

第一編

原子爆弾による
死亡率について

長崎医科大学教授

調 來 助

12 ページ

長崎に於ける原子爆弾
傷害の統計的觀察

第二編

受傷者の死亡時期
について

長崎医科大学教授

調 來 助

19 ページ

長崎に於ける原子爆弾
傷害の統計的觀察

第三編

原子爆弾による外科的
損傷について

長崎医科大学教授

調 來 助

29 ページ

長崎に於ける原子爆弾
傷害の統計的觀察

第四編

原子爆弾による
放射線病に就て

長崎医科大学教授

調 來 助

56 ページ